

関東都市学会ニュース 2025 年 11 号

(2025-3 号)

発行 関東都市学会

〒370-0801 群馬県高崎市上並榎町 1300
高崎経済大学 地域政策学部 米本清研究室内

<http://www.kanto-toshigakkai.com>

2025 年度の関東都市学会秋季大会を、12 月 7 日（日）に山梨県甲府市にて開催いたします。会員の皆様には、**11 月 28 日（金）までにご参加申込をいただき**、ふるってご参加くださいますようお願い申し上げます。

非会員の方のご参加も受け付けております。参加申し込みの際は、参加者ご本人から、下記より参加申し込みをお願いいたします。もしくは、紹介者となる会員から事務局へ、非会員の方の氏名、ご所属、ご連絡先をメールにてお知らせください。

なお、理事会・各委員会は秋季大会時には開催せず、2026 年 1 月 12 日（月）にオンラインにて開催いたします。理事・委員の皆様には、別途メールで詳細をご連絡いたします。

↓秋季大会へのご参加申込はこちらからお願いいたします↓



左の QR コードまたは <https://forms.gle/GcvjGjrXFqnzuv9J6> にアクセスしてください。QR コードでのお申込ができない場合は、事務局 (info@kanto-toshigakkai.com) へメールにてお知らせください。

関東都市学会 2025 年度秋季大会のご案内

大会テーマ「居住地としての都市の魅力とアイデンティティの醸成について」

開催日時：2025 年 12 月 7 日（日）13：30～17：30

開催場所：山梨県甲府市

主催：関東都市学会

協力：甲府市、公益財団法人山梨総合研究所

大会会場：やまなし地域づくり交流センター 多目的ホール
(甲府市丸の内二丁目 35-1 TEL:055-223-1071)

※今回は対面のみの開催となります。

13:00～ エクスカーション受付開始（集合場所は P. 4 参照）

13:30～ 甲府市内でのエクスカーション

14:50～ 大会開始、会長挨拶（大会会場は P. 4 参照）

15:10～ 山梨総合研究所 宇佐美主任研究員からの報告

15:40～ 甲府まちなかエリアプラットフォーム事務局 甲府市役所職員からの報告

16:30～ グループ・ディスカッション

17:40～ 解散、甲府駅南口周辺にて懇親会

大会テーマ「居住地としての都市の魅力とアイデンティティの醸成について」

安藤 克美（山梨県）

中心市街地は、多様な都市機能が集積し、長い歴史の中で文化、伝統を育んできた「街の顔」と言える。しかし、近年におけるモータリゼーションの進展、大規模店舗の出店、消費生活の変化等の社会経済情勢の変化により、空洞化が進みつつある。我が国が人口減少・少子高齢社会を迎えている中で、都市機能の無秩序な拡散に歯止めをかけ、多様な都市機能がコンパクトに集積した、子ども・子育て世代や高齢者を含めた多くの人にとって暮らしやすい、歩いて暮らせる、にぎわいあふれるまちづくりを進めていくことが必要であり、そのためには、国、地方公共団体、地域住民及び関連事業者が相互に密接な連携を図りながら、魅力ある中心市街地の形成を図ることが重要である。

最初に、2025年度の秋季大会が開催される甲府市の状況を概観する。主な公共施設等については、甲府駅南口至近に山梨県庁、市役所、甲府警察署、甲府地方裁判所が立地しており、2012年には甲府駅北口に、市内各所の国出先機関を集約した甲府合同庁舎、NHK 甲府放送局、山梨県立図書館が移転し供用を開始した。

商業施設については、甲府駅から約4km南側を走る国道20号周辺にロードサイドショップ集積しており、中心部の百貨店の撤退（西武（1998年）、山交（2019年）、岡島（2023年））が見られる一方、甲府駅から約7kmの昭和町内に、イオンモールが2011年に開店した（2017年に増床）。こうした状況のなか、2013年に、甲府駅北口に小江戸情緒を受け継いだ「甲州夢小路」が整備され、2025年4月には、南口に「甲府花小路」がオープンしている。特に花小路から城跡を臨む景観は、JRのポスターに採用されるなど、新たに中心部のシンボルになることも期待される。

住居については、駅至近や中心部において大型マンションの立地が進み、1999年に市内最高層となるマンションが甲府駅北口で分譲開始したのをはじめ、南口には商業施設・公共施設を併せ持つ「ココリ（KoKori）」が2010年に分譲を開始し、岡島百貨店跡地は2028年以降商業施設・高層マンションとなる予定である。こうした点について、2019年広島での日本都市学会や2024年水戸での関東都市学会でのエクスカッションにおいて、駅至近で商業開発の圧力が弱く、マンション開発が盛んである状況が紹介されている。中心部において新規の開発が進む中、居住者層も変わりつつあることも想定される。

甲府市では、民間事業者を中心に「甲府まちなかエリアプラットホーム」が形成されており、社会実験などを通じた事業化・定常化を目指している。そこでは、甲府のまちなかにいる人が「幸せで豊かな暮らし」を実感できること（①まちなかで魅力的なライフスタイルが実現すること、②地元の人々がまちなかでの暮らしを大好きになること、③訪れた人のまちなかで過ごす時間が増えていること）を実現したい状態として掲げており、生活の場における豊かさを希求する取り組みが続いている。

他方で、激化する都市間競争の中で選ばれるまちづくりを進める上では、都市の固有の魅力を高める観点がこれまで以上に重視され、特に、人口流出、地域経済の縮小等に直面する地方都市においては、住民のシビックプライドを醸成して域内への磁力を強化しつつ、地方への誘客を促し稼ぐ力を強化することが求められている。

価値観の違う居住者が混在する都市において、あらためてそのシビックプライドやアイデンティティをどこに求めるか、各地で議論や取り組みが進んでおり、特に歴史的蓄積がある都市においては、そのどの部分を切り取っていくか模索が続いている。この点は2022年12月秋季大会「歴史的資源を通じた地域循環共生圏のその先へ」（於：小田原市）において、ラディカルな史跡復元が進められ、まちに色々な歴史がある時代のミルフィーユ的なまちと評価されたことにも現れている。また、2024年12月秋季大会「都市の成熟とプロスポーツ文化：地方都市の変遷と移動する人々の生活」（於：水戸市）では、ドイツのブンデスリーガのように、サッカーチームが地域住民にとってのアイデンティティ／シビックプライドとなることを目指していることも紹介された。

甲府の起源・歴史に目を向けると、2019年には、武田信玄の父である信虎公が躑躅ヶ崎に館を構えた開府から500年を迎えた。これを記念して様々なイベントが開催され、甲府駅南口の信玄公像に加え、北口に信虎公の像も設置された。

また、1998年に設立された地域シンクタンクの山梨総合研究所は、「新世紀甲府城下町研究会」を立ち上げ、小江戸甲府の再発見をテーマに議論を進めており、2018年には、「都市のアイデンティティ この地が持つ記憶を呼び起こす」をテーマとするシンポジウムを開催している。

甲府市は、重点計画である『KOFU NEXT ACTION 2024～希望ある未来へ～』の中で、「甲府市が紡いできた重層的な歴史・文化を感じながら周遊・交流できるまちを次代につなぐ（小江戸甲府 城下町整備事業の推進）」を施策として掲げており、市長も、甲府花小路のオープンに際し「武田三代から現代に至るまでの先人たちが駆け抜けきた様々な時代を再認識するなかで、甲府が有する重層的な歴史・文化を改めて学ぶことが、郷土への誇りと愛着の醸成につながる」と述べている。

一方、47 の都道府県庁所在地を紹介した『県都物語』（2018 年、西村幸夫著）において、甲府市は、地元の人たちは戦火によって市街地の八割近くが被災したため、昔の面影は現在の市街地では失われてしまったと決めつけているふしがあり、何よりも地元の人たちにとってのヒーローは武田信玄であり、その後の近世城下町に関心が向けられること自体が少ないようだを紹介している。

こうした甲府市の現状や都市学会の議論等を踏まえ、今回の秋季大会においては、テーマとして、「居住地としての都市中心部の魅力とアイデンティティの醸成について」取り上げる。担当者から、市の重層的な取り組み内容を伺う中で、今回のテーマについて議論を深化させ、都市の魅力のあり方について考える契機になればと思う。

秋季大会 会場へのアクセス

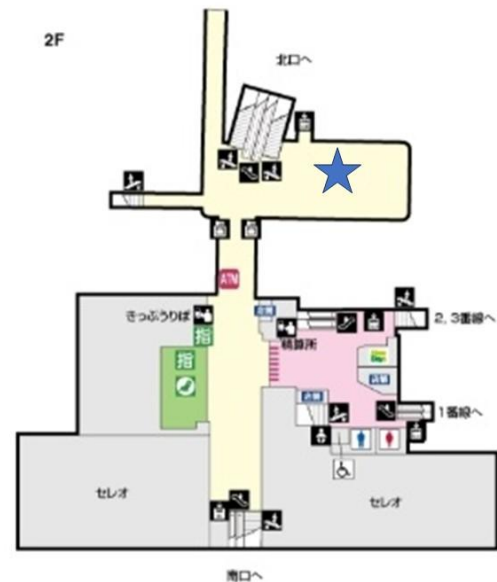
※特急電車は全席指定なので、事前予約をお願いします。当日にはすでに満席になっていることもありますので、早めに予約されることをおすすめいたします。

※甲府駅北口方面の武田神社や信玄ミュージアムは、時間の都合上、今回のエクスカーショには含まれません。アクセスは、甲府駅北口から徒歩約30分程度、バスについては山梨交通ホームページを参照してください。

■エクスカーション集合場所

甲府駅北口コンコース(ピアノ前) (右図の★印)

甲府駅改札(1箇所)を出て、右側に進んでください。店舗とコインロッカーを右に見て進むと、コンコースが見えます(改札から徒歩1分)。ピアノが置いてある付近で受付を行います。全員が揃いましたら、エクスカーションをスタートします。



■大会会場

やまなし地域づくり交流センター 多目的ホール(甲府市丸の内二丁目 35-1) (下図の★印)

甲府駅改札を出て、左側に進んでください。甲府駅南口から平和通りを南進、甲府署前交差点を右折し進むと、右側に会場が見えます(甲府駅から徒歩12分)。

※開場は大会の20分前を目安。なるべくエクスカーションからの参加をお願いします。

<会場周辺地図>



お知らせ・募集

【2026 年 3 月研究例会 報告者募集】

2026 年 3 月 15 日（日）に開催される 2025 年度第 2 回研究例会（日本大学文理学部キャンパス（予定）において 15：00 より）の報告を募集いたします。報告をご希望の方は、氏名、報告タイトル、内容の概要（300 字前後）をメールにて、関東都市学会事務局までお寄せください。2026 年 1 月 9 日（金）を〆切とします。申し込みが〆切を過ぎる場合には事務局までお問合せください。

【2026 年度春季大会 自由報告募集】

2026 年 5 月 31 日（日）（予定。変更がある場合はメールにてお知らせします）に開催される 2026 年度関東都市学会春季大会の自由報告を募集します。報告を希望される方は、氏名、報告タイトル、内容の概要（300 字前後）をメールにて、関東都市学会事務局までお寄せください。2026 年 2 月 27 日（金）を〆切とします。

【2026 年度 日本都市学会賞推薦候補図書募集】

日本都市学会では、毎年大会時に日本都市学会賞（奥井記念賞）を選定しておりますが、その選定にあたり各地方都市学会から候補作品（最大 3 点まで）を推薦することになっています。関東都市学会として 2026 年度の日本都市学会賞候補作としてふさわしい推薦図書を選定するにあたり、会員から次の要領で推薦を公募し（自薦・他薦を問いません）、それを踏まえて選考作業を理事会内で行うことにいたします。

（1）候補作品の対象

2024 年 1 月 1 日～2025 年 12 月 31 日（奥付記載日）に刊行された、日本都市学会会員の著作（共著を含む）等

※ 日本都市学会賞（奥井記念賞）の推薦要件については、日本都市学会ホームページ <http://www.toshigaku.org/>を参照。

（2）推薦書類等提出物

推薦文（400 字程度）及び該当図書 2 冊（審査後必要であれば返却）
（審議のうえ審査対象になる場合、7 部（献本）が必要になります）。

（3）締切

2026 年 2 月 26 日（木）必着

（4）提出先

〒370-0801 群馬県高崎市上並榎町 1300

高崎経済大学 地域政策学部 米本清研究室内 関東都市学会事務局 宛

日本都市学会賞には特別賞（外国語著作賞、学術共同研究賞、まちづくり賞）の部門もあります。学術共同研究賞およびまちづくり賞については、2023 年 1 月 1 日から 2025 年 12 月 31 日の 3 年間に刊行された、日本都市学会会員の著作（共著を含む）等が対象です。こちらについても情報をお持ちの方は事務局までお寄せください（書式自由）。なお、外国語著作賞については、今回から募集時期が早まり、既にメールにてご連絡している通り 9 月末で締め切りました。

【会員の異動】

（省略）

2025 年度第 2 回理事会（2025 年 9 月 7 日）報告

2025 年 9 月 7 日、2025 年度第 1 回研究例会に先立って 2025 年度第 2 回理事会が開催されました。報告・承認された主な内容は次のとおりです。

1. 本日の研究例会について
2. 秋季大会について
 - ・ 松橋研究活動委員長および安藤理事から日程・テーマ案・人選などの検討状況につき説明があった。
 - ・ 会場確保の都合から第一候補日を 12/7（日）に変更することが承認された。当日はまち歩きの後、やまなし地域づくり交流センターにて開催する方向で調整中。
 - ・ 安藤理事が「大会担当理事」に就任することが承認された。
3. 来春以降の研究例会・大会について
 - (1) 2025 年度 3 月研究例会
 - ・ 会場として日本大学文理学部キャンパスなどを検討していることが報告された。
 - (2) 2026 年度春季大会
 - ・ 会場は早稲田大学西早稲田キャンパスもしくは成城大学などを検討していることが報告された。
4. 研究活動委員会から
 - ・ 松橋研究活動委員長から研究活動委員会の検討状況についてまとめの報告があった。
5. 編集委員会から
 - ・ 石神委員長から年報 26 号の送付状況および年報 27 号の編集状況・予定について説明があった。
 - ・ 年報 26 号の J-stage へのアップは 9 月中に行う予定であることが報告された。
6. 日本都市学会理事会から
 - ・ 土居会長から、日本都市学会の年報事務局の担当について、11/7・9 の佐賀大会について、土居会長の倫理委員会メンバー就任について、関東都市学会からの理事 4 名の分担（土居会長：支部会長理事、西野副会長：会務担当理事、小山理事・平井理事：選出理事）について報告があった。
7. 日本都市学会賞推薦図書について
 - ・ 日本都市学会外国語著作賞
2025 年 9 月 30 日（第 1 エントリー）・2026 年 3 月 13 日（第 2 エントリー）
第 1 エントリーの期日か近づいているため、事務局（野坂理事）からメーリングリストを利用し会員にご推薦をお願いすることとなった。
8. 事務局から
 - (1) 入会
 - ・ P5 に記載の通り、4 名の入会が承認された。
 - (2) 2026 年 1 月の理事会について
 - ・ 今後、日程調整を行うこととした。

関東都市学会研究例会（2025.9.7）の記録

2025 年 9 月 7 日（日）、晩夏の穏やかな午後、京都芸術大学外苑キャンパスにおいて、関東都市学会 2025 年度第 1 回研究例会が開催された。対面とオンラインのハイブリッド形式で行われ、自由報告では 1 名および 1 組の発表が行われた。

最初の報告では、京都芸術大学大学院の研究員である岩本剛氏らによる「地域文脈とインタビュー調査からみる「新橋らしさ」とその継承について」が報告された。

20 年前、私自身も留学生として新橋でアルバイトをしていた経験があり、その街の変化や人々の語りにどこか懐かしさを覚え、特に興味深く拝聴した。

本報告は、再開発が進む新橋において、かつての「新橋らしさ」が失われつつあるのか、それとも新たな「新橋らしさ」が生まれつつあるのかという問いを軸に、地域の変化を考察するものであった。調査は長年この地で商いを続ける店主たちを中心に行われ、街の変遷を支えてきた人々の語りから、地域のアイデンティティを読み解こうとする試みが印象的であった。

質疑応答では、インタビュー対象が商店主に偏っていることによる限界や、「新橋らしさ」をどのような基準で定義するのかといった点について、活発な意見交換がなされた。

続く報告では、谷公太氏（株式会社イーガオ）による「都市周辺に伸びる道——高度経済成長期における神奈川県大井町の事例から」が発表された。1960 年代における東名高速道路や幹線道路の整備を背景に、都市近郊の空間がどのように変容したのかを多角的に検討したものである。

報告では、当時の新聞・雑誌記事や行政資料を丹念に分析し、道路整備が地域の産業構造や生活圏の拡張に与えた影響を分析していた。特に、道路網の拡充が単なる交通インフラ整備にとどまらず、郊外の「周辺性」を形成し、東京との距離感や地域アイデンティティの再構成につながっていったという指摘が印象的であった。

高度経済成長期の「郊外化」を、開発の論理だけでなく人々の生活感覚や社会的想像力の変化として捉える視点は新鮮であった。

質疑応答では、資料の多様さと分析の細かさが高く評価される一方で、発表内容の構成や主張の焦点がやや掴みにくいという声も多く、活発な意見交換が続いた。

私自身は懇親会の席で改めて説明を伺い、少し理解が深まったようにも思われたが、それでもなお考えさせられる部分が多く、都市周辺というテーマの複雑さを実感する機会となった。